

A. 日 時 2013年5月10日 金曜日 17時30分～19時30分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本主査 他9名

D. 提出資料

No. 01-01 第17回 環境振動評価小委員会 議事録（案）

No. 01-02 2013年度 委員会活動計画案

No. 01-03 RESULT OF SYSTEMATIC REVIEW OF ISO STANDARD, ISO 2631-2:2003

No. 01-04 気象庁 長周期地震動に関する情報（試行）

No. 01-05 S造超高層建物での風揺れアンケートを基にした居住性能評価

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料 No. 01-01 「第17回 環境振動性能評価小委員会 議事録（案）」について報告

※ 前回委員会議事録内容の確認

→ 承認された

2. 議論

A) 環境振動評価小委員会活動報告について

→ 最終回の小委員会にて報告のあった各WTの活動報告を前主査より各委員へ送付

B) インターネット会議の導入

→ 学会としても推奨していることから、導入を検討する

C) 資料 No. 01-02 「2013年度 委員会活動計画案」について松本主査より報告

※ 活動計画

→ 昨年度までの活動内容を踏襲し、適宜委員内審議にて検討

※ 委員の公募

→ 2名が退任、新たに2名公募（既に学会HP等にて公募の旨アップ済み）

→ 応募の〆切（5月末日）まで待機し、以降メール審議にて新規委員の検討・信任を行う

D) 資料 No. 01-03 「RESULT OF SYSTEMATIC REVIEW OF ISO STANDARD」について報告

※ 審議の推移

→ 前回の審議の際（@2008）にUSA・UKより抜本的な改訂の提案がなされた

※ 日本からの今後のアプローチ

→ 2631-1と2631-2との整合性に関するコメントを前回送ったが、まだ解消されていないので、
今回も再送付

→ 5月末までコメント募集中（主査まで）

E) 資料 No. 01-04 「気象庁 長周期地震動に関する情報（試行）」について報告

※ 内容

- 人の体感・行動、および室内の状況を示した 0 から 4 の階級が気象庁のサイトにて報知
 - それぞれの階級は周期 1.6 秒から 7.8 秒間の速度応答スペクトルの値を基に決定
-

※ 疑問点

- 速度表記で評価をして良いのか？一定速度での評価となっているが、周期成分の重み付けを要する既往研究も散見される
 - 加速度表記で評価を行うと、気象庁の提言では右上がり（~~右下がり~~訂正@2013/05/20）となっているが、既往研究や学会指針における振動知覚評価に関しては右下がりとなっている
-

※ 今後

- あくまで地震の規模を示したものであり、建物側の設計に用いるのはまた別の思考では？
 - 学会（本小委員会）として何らかのアプローチをする必要はあるのか？ ⇒ 学会名としてのアプローチは手順を踏んで行うこと、個人名としての質問ならば良いのでは？
 - 今後の経過を観察、次回の小委員会の検討項目に含める
-

F) 資料 No. 01-04 「S 造超高層建物での風揺れアンケートを基にした居住性能評価」について報告

※ 内容

- 学会指針を基に振動実測値より逆算した知覚確率よりも、風揺れ時に行ったアンケート調査時の知覚割合の方が高かった事例の報告
-

※ 議論

- 何らかのトリガー（室内ブラインドの揺れ等）があると知覚は鋭敏になる
 - ねじれと並進同時発生時の評価方法は複雑、ましてやランダム振動ならばなおさら…
 - 人体側の評価は xy に軸を分割して検討するべきではなく、実際に発生している複合的な？振動で評価すべき、との意見も寄せられた
-

3. 次回以降の課題

- ※ 今後の運営方針・議案内容の検討
 - ※ 建築学会オンラインストレージの有効な活用方法の検討
 - ※ 新委員の信任など
-

次回の当委員会は、2013 年 7 月 19 日（金曜日）17 時 30 分より本会会議室で開催します。

資料を提出される方は、あらかじめ準備（15 部）されるか、もしくは 3 日前までに原紙を事務局へ送付ください。
